



昭和51年(1976)9月豪雨

# 岐阜市を水浸しにした台風17号



昭和51年(1976)9月12日、朝7時半頃、ついに長良川堤防が決壊し、濁流が安八町・墨俣町の大部分を埋め尽くしました。  
岐阜市の被害はどんな活動・努力をしたのでしょうか？  
人々はどんな活動・努力をしたのでしょうか？

## 1. 一週間も降り続いた雨

昭和51年(1976)9月4日に発生した大型の台風17号は、北緯30度付近で足踏み状態となり、日本上空に停滞していた前線を刺激しました。このために、9月7日から13日



—9日忠節橋の様子—

にかけて岐阜県を中心に中部地方は多量の降雨に見舞われました。中でも岐阜市・郡上市などが位置する長良川流域では降雨量が1000mmをこえる所も多くありました。

## 8/9日

「被害は市北部から始まった」

岐阜市では、8日0時から9日9時までに345mmという激しい雨に見舞われ、8日21時50分からの時間降水量は92.5mmに及びました。9日3時50分計画高水位に達する大出水を伝える長良川洪水警報第1号が発令されました。

「9日正午現在の県内被害状況」

「がけ崩れなどでけが人3、家屋全壊2、同半壊2、床上浸水653、床上浸水4711、山崩れ61、道路決壊

## 10/11日

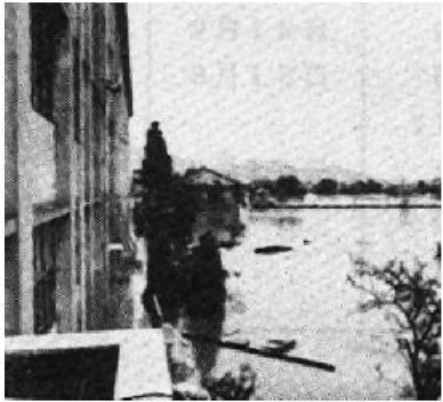
「濁・溢流水が南へ西へ」

10日にはいったん小康状態になりましたが、11日には時間降水量50mmの激しい雨が水浸しの県内を襲いました。このため長良川の増水は長時間にわたって続き、11日14時には再び7.15mのピーク水位を記録し、岐阜市内では鏡島・合渡地区両岸が危険な状態となりました。「もう降らないでくれ」と祈るように空を見つめる住民の願いとは裏腹に、岐阜市内では、山崩れにより一人が生き埋めとなり、初の死者が出たのです。11日午前には伊自良川で3カ所(高



黒野折立地区のようす

17. 岐阜市内で最も浸水が激しい常磐地区では約400の家屋が床上・床下浸水しており、更に岩野田・早田地区でも200世帯が避難した。」  
(岐阜日日新聞・9日夕刊)



水に浸った島小学校

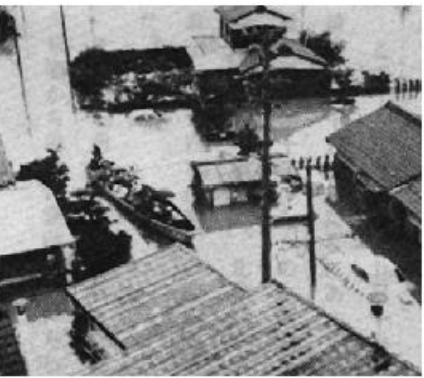
12日早朝の降雨で墨俣や忠節の水位が4回目のピークを迎え、長良川下流域では緊張が一気に高まりました。安八町大森の決壊現場では7時30分頃堤防面に亀裂が生じ、消防団・地元住民がくい打ち作業など懸命の水防活動が続けました。しかし10時28分頃遂に堤防が決壊しました。

## 2. 浸水被害が大きかった岐阜市北西部とその原因

岐阜市内で浸水被害が大きかったのは、長良川北部の岩野田・常磐・鷺山地区、北西部の黒野・則武・城西・島地区、そして境川沿いの長森南・厚見地区などでした。

特に長良川以北では、伊自良川・板屋川の決壊や鳥羽川などからの溢流による濁流水が、岐阜市北部から下流部の南西方面へ流れ、次第に浸水地域を広げていきました。

しかし長良川・伊自良川の水位が高かったため、正木川・則武川・早田川・両満川・根尾川などの小河川



舟で避難する人々 一島小学校区

## 3. 必死な人々・避難と水防活動

大規模な浸水被害の発生した岐阜

の水が排水せず、泥海と化していききました。これが北西部の黒野・則武・城西・島・合渡地区などの大きな浸水被害の最大の原因です。その他に、次の点などが原因と考えられます。

ア、伊自良川の下流部は、長良川との分派口閉切り以後も殆ど改修が行われず未改修に近い状態で、堤防も弱小な所が多かった。

イ、長良川、伊自良川の水の逆流を防ぐために早田川・両満川等の水門を閉めたので、水がこの地域に溜まってしまった。停電のため水門開閉のモーターが動かず水門を開けるのに手間取り、長良川の水位が下がった後も水が引かず、浸水時間を長くし被害を大きくした。ウ、かつての遊水池であったような場所が、宅地造成や工業・商業施設の建設等による乱開発によって保水力が減少した。

エ、約2千世帯の家が床上浸水となった島校区では、半数の人が小学校へ避難し、残りの人は農協や親戚・知人宅、堤防などに避難しました。また1週間以上も続く豪雨の中で、「地域を守りたい」という強い思いから、水防団や消防団などの人々は、必死に活動されました。

オ、9日午前1時再び出動命令。水位は本流7m。雨は降り続く。(中略)やはり徹夜となる。雨は予想以上に降り、身体は冷え大層疲労を感じる。午前2時また堤防に立つ。雨は矢のごとく降り続き身体に震えを感じる。心の中で「雨よ、やんでくれ」と繰り返し唱える。し



土嚢を積み自衛隊 鏡島の左岸堤防

市には災害救助法が発動され、活発な救助活動が行われました。学校・公民館・寺院など73カ所が避難所として、最高8日間にわたって被災者1万2245人を受け入れ、炊き出しも行われました。その他、生活必需品の支給、被災家庭の消毒、排出される莫大なゴミの処理など、全市をあげて取り組まれました。

約2千世帯の家が床上浸水となった島校区では、半数の人が小学校へ避難し、残りの人は農協や親戚・知人宅、堤防などに避難しました。また1週間以上も続く豪雨の中で、「地域を守りたい」という強い思いから、水防団や消防団などの人々は、必死に活動されました。

オ、9日午前1時再び出動命令。水位は本流7m。雨は降り続く。(中略)やはり徹夜となる。雨は予想以上に降り、身体は冷え大層疲労を感じる。午前2時また堤防に立つ。雨は矢のごとく降り続き身体に震えを感じる。心の中で「雨よ、やんでくれ」と繰り返し唱える。し

富町四日市、岐阜市岩利、安食・石谷、午後に入ると板屋川で2カ所が決壊。濁流が黒野地区に流れ込み大被害をもたらしました。

また鳥羽川は粟野から下岩崎にかけて溢流し、この溢流水は高富街道の旧道沿いに天神川排水路まで南下流および西流し、その後西流して下土居から正木・則武・城西・島へ浸水しました。このためにこれらの地域は流入水とそこでの内水で、水深2m以上の大規模な浸水域と化し、大被害をもたらしました。

中でも湿地に新しく造成された城田寺大正団地などの浸水被害は悲惨なものでした。また長良川以南では岩戸・白山・南長森地内における浸水被害が著しかったようです。

校区	床上浸水		床下浸水	
	世帯	人口	世帯	人口
梅林	454	1476	1652	5891
白山	460	1536	1014	3623
島	1199	4720	614	1812
城西	1149	4285	682	2303
鷺山	735	2682	1677	5757
則武	1094	3874	710	2605
常磐	540	2034	310	941
長森南	497	1763	1163	4047
岩野田	694	2538	1118	3805
黒野	1042	3036	1009	3373
厚見	597	2140	1873	6505

校区別浸水被害

## 12日

「岐阜市内下流域では厳戒態勢」

12日には、県災害対策本部は陸上自衛隊第10師団に岐阜・大垣など2市2町1村の出動を要請しました。

かし無情の雨は降り続きやがて東の空もしらみかけた頃の10日午前5時半、本流・支流とも8m近くにはね上がる。(略) (島水防団第八分団Kさんの手記)

8日頃から長良川の高水位が続き、10日頃から右岸(合渡側)・左岸(鏡島側)とも危険な状態となっていました。左岸堤防は自衛隊が守っていましたが、右岸は6箇所にわたって亀裂やズレなどが発生。その度に一日市場・河渡分団が中心となり、応急修理でようやく持ち堪えることができました。

一方、内水対策の一つとして、少しでも上流から押し寄せる水を防ぐため曾我屋横堤の補強が9日に始まりました。(中略)横堤を越えた水は曾我屋・寺田・河渡へ流れ込みました。その間も、伊自良川や根尾川の堤防にもズレが生じ曾我屋・寺田分団が修理するなど慌ただしく奮闘しました。

(合渡水防団Kさんの話) 注 合渡地域の中に、曾我屋・一日市場・寺田・河渡地区があります。

この文章は、「岐阜市史」「岐阜県史」「HP」岐阜県災害資料「豪雨・水害記録(城西小)」「禍・水害記録(島小)」「島郷土史」「岐阜市合渡の歴史」「木曾川上流80年のあゆみ」などをとくに、後藤征夫がまとめた。

岐阜市歴史博物館ボランティア  
「お話・岐阜の歴史サークル」  
代表 後藤 征夫  
http://bookgeocities.jp/gifukeys/keisitop.htm  
TEL058-231-6726